

白 塚

学校だより 1月号 NO.9
平成29年1月11日(水)

長浜市立西浅井中学校



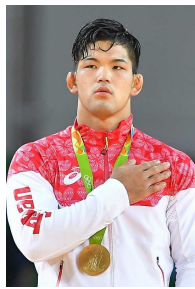
新年あけましておめでとうございます 本年もよろしくお願いたします

今年も穏やかな暖かいお正月を迎え、平成29年がスタートいたしました。新年にあたり、将来を担う西浅井中学校生の健全育成のために、いつも地域の多くの方に支えていただいていることに心より感謝し、「感謝！感激！感動！夢(志)を持ち笑顔あふれる西浅井中学校」の実現に、気持ちを新たに頑張りたいと思っております。本年もどうかよろしくお願いたします。



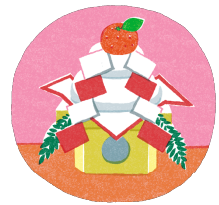
「敗者への敬意貫く強さ」

私事、年男となる酉年の由来を調べてみると、「果実が極限まで熟した状態・酒熟して気の漏れる状態」と書かれていました。そして酉年は、実りの多い一年で、区切りのある年となる可能性がある年とも言われています。そこで今年一年、運氣や有効な情報を取り入れ、夢の実現を目指した飛躍の年にしたいものです。そのような高みにチャレンジする時、大切にしたい心がけの一つが年末の新聞に載っていましたので紹介します。



『リオ五輪で大野翔平選手は5試合のうち決勝を含む4試合で1本勝ち。五輪では日本男子に2008年の北京大会以来となる金メダルをもたらした。大野は盤石の柔道を見せたが、いざ優勝が決まった後の振る舞いは想像を超えていた。表情を変えず、ガッツポーズもない。深く、丁寧に礼をして、畳を降りてやっと笑みがこぼれた。「対人競技なので相手を敬おうと思っていた。よく気持ちを抑えられたと思う」と大野。柔道発祥国としての誇りを見せつけた。～中略～ 大野が正しく組んで投げる伝統的な日本の柔道の頂点に立ち、相手への敬意を示したことは柔道本来の価値を再確認させた。もちろん技術や体力、期待と重圧を受け止められる精神力など、大野が積み上げた高みは一朝一夕に到達できるものではない。それでも王者がかねて公言していた「圧倒的に勝つ」には、こうした礼儀も含まれていたに違いない。・・・』 ～「リオ柔道男子73Kg級金の太野翔平」中日新聞より～

私も約40年前の中京大学軟式庭球部で、「インカレ団体狙うなら、技術(プレー)だけでなく、あいさつやコートマナー、コート整備など何事においても日本一を目指せ。」と、先輩から厳しく教えられていたことを思い出しました。酉年のスタートにあたり、大野将平選手のように敗者への敬意も含め、全ての面での継続した努力が夢の実現に近づき、誰からも応援される生き方につながることを忘れず頑張っていきましょう。



保護者・地域の皆さんへ 「西浅井中学校部活動再編について」

2年前に比べ、今年の4月からの生徒数は47名減(134→87)、顧問数が4名減(11→7)と大幅減となります。現在、昨年度末より部活動の再編に取り組みましたが、まだまだ課題も多く、保護者の方や地域の皆様にもご心配をおかけしております。過渡期となるここ2～3年で、現状と課題を元に生徒のやる気と安全面を考慮したより良い方向を考えていかなければなりません。そこで、在校生や新入生の希望や皆様からのご意見も参考に、将来の方向性を定めていきたいと思っております。ご意見のある方は、学校または、PTA三役の方にお話頂けますよう宜しくお願いいたします。